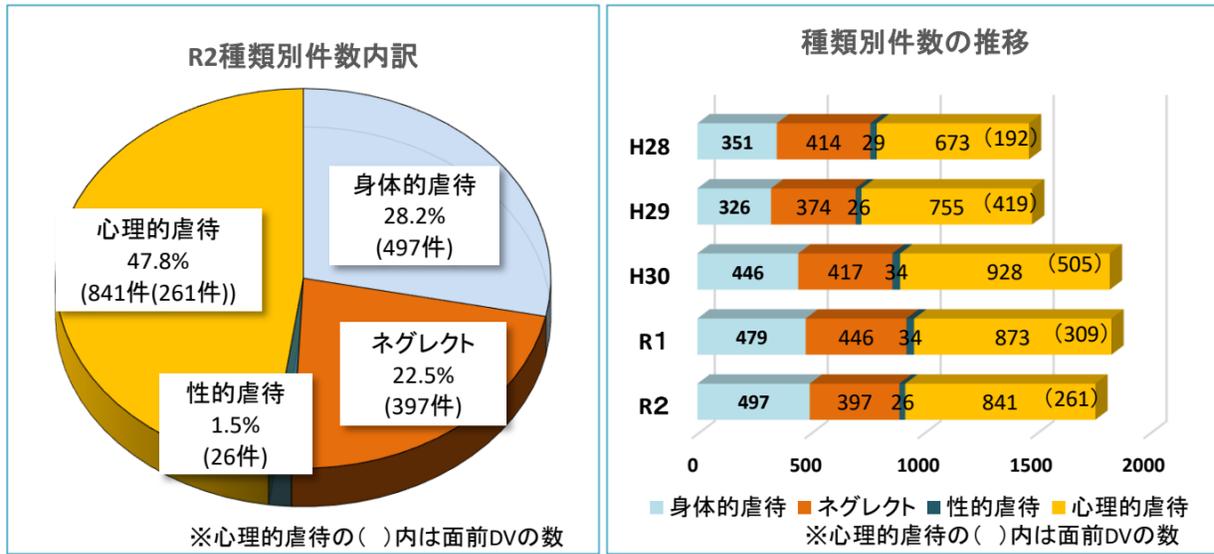
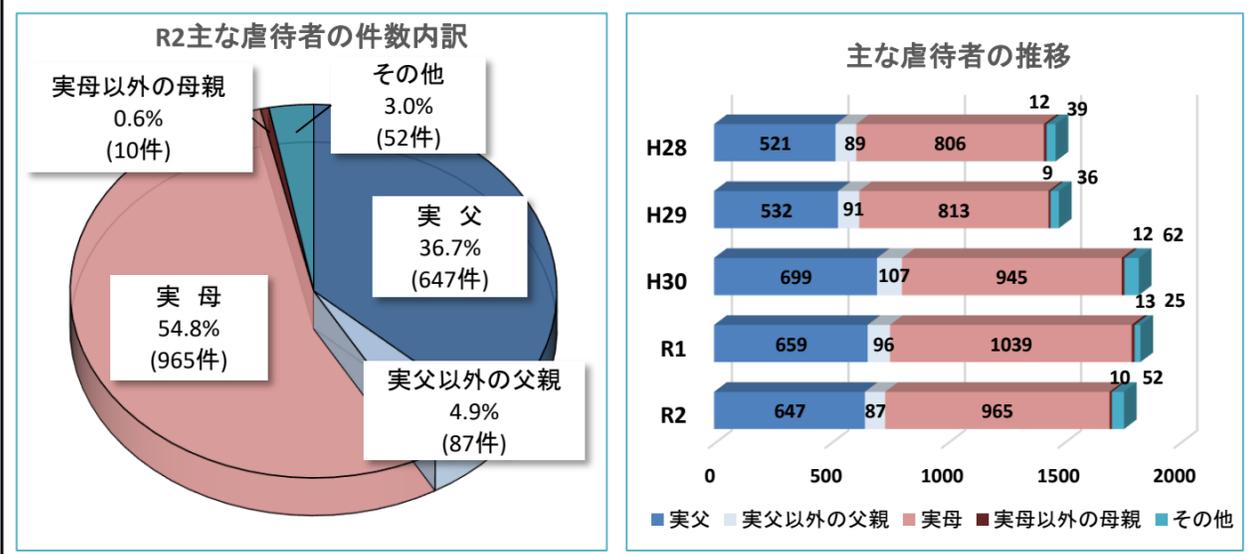


虐待の種類



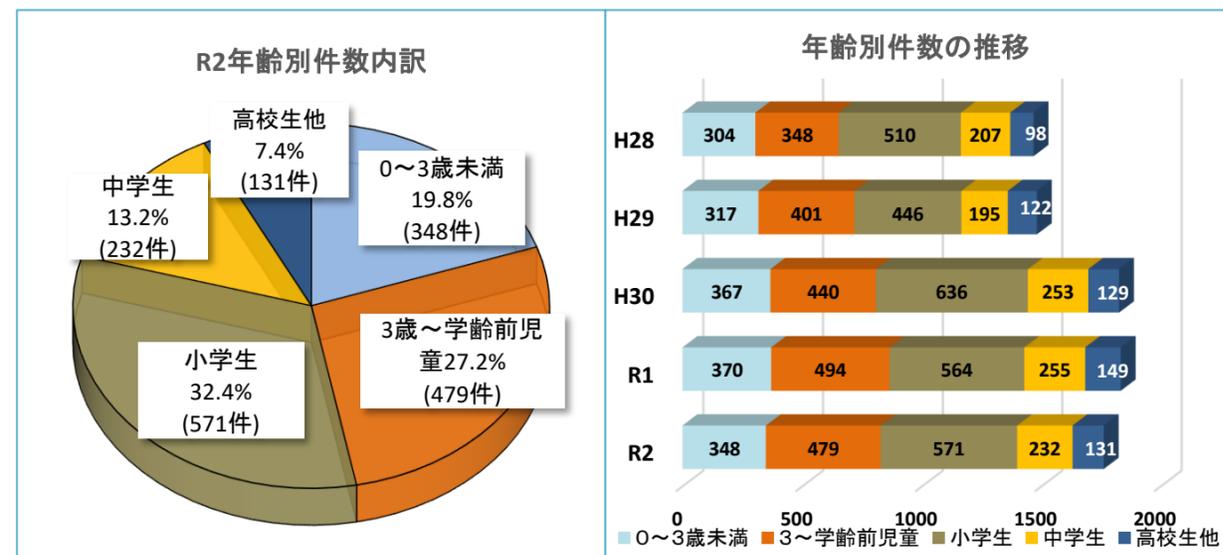
「心理的虐待」が最も多く、次いで「身体的虐待」「ネグレクト」の順に多い。前年度と比較すると、身体的虐待(3.8%増)が増加し、ネグレクト(11.0%減)、性的虐待(24.5%減)、心理的虐待(3.7%減)が減少している。心理的虐待については減少したものの、依然として全体の約半数近くを占めており、その傾向は前年度と同様である。

主な虐待者



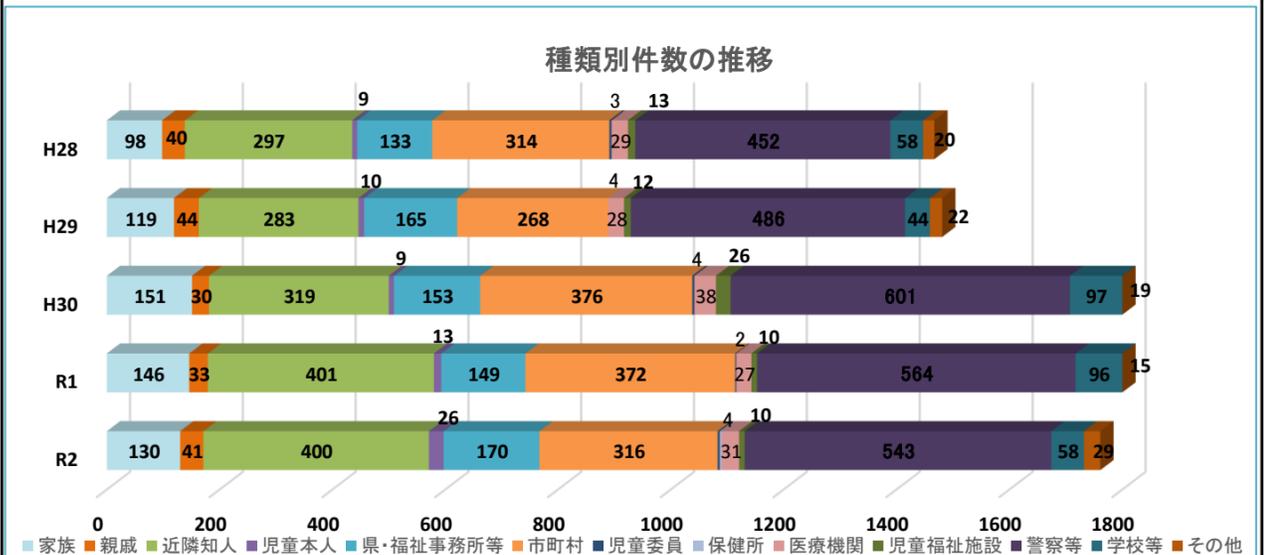
「実母」が全体の半数以上を占め、「実父」と合わせた「実親」の割合が、全体の約9割を占めている。前年度と比べて割合に大きな変化はない。

被虐待児の年齢



前年度と比較すると、「小学生」が微増(1.2%増)し、それ以外のすべての年齢別で減少している。年齢別の割合の傾向については前年度と同様である。

虐待通告の経路



関係機関からの通告では「警察等」「近隣知人」「市町村」の順に多い結果となったが、いずれも前年度と比較すると減少している。とくに「学校等」が39.6%減と大幅に減少しており、次いで「市町村」が15.1%減となっている。